

“津久井観音霊場巡り” その3

3日目 (H19, 2007/06/18 月) 歩き

自宅 (am10:22 出発) → (バス、城山高校前) → 三ヶ木 (10:57 着) & (バス) 阿津 (11:03 着) → 1.29 km → 第15番; 正覚寺 → 0.28 km → 第13番; 宝珠庵 → 2.51 km → 第14番; 顕鏡寺 → 3.18 km → 第16番; 宝福寺 → 1.36 km → 第17番; 大通寺 → 1.96 km → 第18番; 善勝寺 → 2.44 km → 第19番; 長福寺 → 2.34 km → 相模湖駅 → バス三ヶ木經由東向原 → 1.88 km → 自宅 (pm16:52 着) 合計 18.58 km

その2の霊場巡りから5日も空いてしまったが、曇り空の中を10時22分に出発する。塔王坂から津久井街道の谷ヶ原に出てバスに乗ろうとしたが、目の前で乗り遅れてしまい、次のバスに城山高校前まで歩いて乗車することにした。バスの左側車窓から眺め下ろすダム下の峡谷は、乗用車や歩道からでは見られない角度からの見下ろしになり、かなりの迫力である。

三ヶ木バスターミナルからすぐに相模湖駅行きに乗り換えて再び出発、正覚寺あたりのバス停は何か? とぼんやりしていたら、手前の阿津という交差点でいきなり右折してしまった。あわててベルを押し、阿津バス停で下車する。此のバスは桂橋経由で相模湖駅に行く系統らしい。

今日の予定の13番札所の前に15番札所の“正覚寺”に最初に到着した。“俳句寺”と呼ばれる此の寺に読

経の後、たくさんの句碑を眺めながら裏山の階段を登りつめると、鐘楼堂がありここで一突きすると、清々しくやまなみに伝わっていく余韻にひたる。この鐘

楼堂が13番札所の“宝珠庵”らしい。ここも正覚寺が兼務しているとのことで、住職と思われる人が、下の方でエンジン音を響かせながら草刈りをしていた。この住職は素晴らしいHPを開設しており、俳句寺の様子や津久井観音霊場などの情報を発信している御坊である。何年か前にこの

寺の名物“滝つつじ”を見に寄った時に、人なつっこい子供が二人、小学校2年生の男の子と6歳位の女の子が、広い裏山をかわいく案内してくれたことがあり、その素朴さからご両親や家族の暖かさを感じたことがあった。一緒に撮った数枚の写真を送ってあげたら、住職から丁寧なお礼の手紙が送られてきたことがある。お父さんのようにお坊さんになると言

愚痴無知の衆生済度の
大智山不取正覚の
誓い頼もし
ぐちむちのしゅじょうさいどの
だいちざんふしゅしょうがくの
ちかいたのもし

沼本の川浪澄ます
宝珠庵浮世の塵を
洗い流して
ぬまものかわなみすすす
ほうしゅあんうきよのちりを
あらいながして



第15番 正覚寺 (山口) 観世音菩薩

大智山正覚寺 (しょうがくじ)。臨済宗建長寺派。創立は、嘉慶元年 (1387)。開山雲潭玄蔭。御本尊聖観世音菩薩は行基菩薩の御作。昔から子供の命名加持が行はれ、名付観音として知られる。境内には西行法師の歌碑、民俗学者柳田国男の句碑、木洞地藏、百メーターの滝つつじ、神奈川銘木百選の五色椿、建長寺山門建立狸和尚伝説、首周達磨等あり。別名俳句寺と称し、現在境内に二百二十余基の句碑建立。

第13番 宝珠庵 (元沼本) 十一面観世音菩薩

朝光山宝珠庵 (ほうしゅあん)。臨済宗建長寺派。宝徳元年 (1449) 聖林慈徳和尚により内郷地区、沼本に開山創立。十一面観世音菩薩を安置した観音堂は、昭和41年に津久井湖ダム建設に依り水没、その後正覚寺と合併し、現在は正覚寺境内の鐘楼堂 (回向の鐘) に安置。本年の本開帳に際し、寸沢嵐の江藤ナカ様の浄財に依り、霊場本尊は新輝修復安置される。霊場管理、納経札等は第十五番札所正覚寺で兼務。

っていたあの男の子も、今頃はそんな学校を目指しているのだろうか。そんなことを思い出しながら、ミルクもお参りに来たことがある正覚寺をあとにした。

2000/05/14 だいこう君、ゆきえちゃんと元気だったミルク



こから第14番札所“顕鏡寺”へは、石老山登山道の中腹まで上り詰めた所にあるらしい。登り始める前に自動販売機を探したが見当たらない。仕方なく正覚寺前の喫茶店で水分補給をすることにする。表から見るより店内は立派なレストランだったので一瞬躊躇するが、ここでケーキと紅茶をいただく。ちなみに炭酸飲料は一切おいてなかったが、とりあえず水分補給も十分なので登り始める。



しばらく登りつめた頃、相模湖病院の前の標識に従って進んでいったら、完全に登山道に入り込んでしまった。大きな奇岩巨石に出会いながら、かなりきつい石ころだらけの登山道を汗だくで進む。相模湖病院前の標識には0.4kmとあったので嵩をくくっていたが、これが1キロ位あったと思われるほどきつい。うっそうとした森が少し開けたと思ったら立派な山門が急に現われた。すぐ横に立派な自動車が上ってきているではないか。そうか、相模湖病院の前の車道をそのまま真っ直ぐ登ればこれに通じたのかと納得する。自分が登った道が“男坂”といわれる厳しい道だったようだ。

第14番 顕鏡寺(増原) 十一面観世音菩薩
石老山顕鏡寺(けんきょうじ)。高野山真言宗。御本尊は、福一満虚空蔵菩薩。貞観12年、石老山縁起に由来する岩若丸、後の源海法師に依り開山される。寺の参道は東海自然舗道に成っており、伝説を秘めた老杉、古松や石老山縁起に由来する岩窟等多くの人々に知られている。霊場本尊の十一面観世音菩薩は、明治中期に合併した増原西福寺の御本尊を遷座したものである。

来てみれば世に増原の
顕鏡寺朝日輝く
法の石山
きてみればよにますはらの
けんきょうじあさひかがやく
のりのいしやま



鐘楼で一突きし、本堂と岩窟にお参りをすませ、しばし境内から眼下の眺望を楽しむ。山腹からの眺めが気持ちのよいお寺だった。山門前の自動販売機も嬉しかった。(値段も 120 円と地上と同じで更にうれしい。)



帰りは、女坂の車道をのんびり降りることにした。途中には立派な真新しい民家が数軒あり、一見別荘風の面白い建物さえある。ただ此の急坂では雪が降ったら大変だろうと、つい余計な心配をしてしまう。売れ残りらしき宅地の看板には“水はおいしい地下水”となっていた。やはりこのあたりは水道局の番外地なのだろうと納得する。山向こうの同じ高さ位の山頂にはピクニックランドの観覧車が見えている。登ってきた道に戻って津久井街道に出ては面白くないので、途中から右にコースをとり、阿津交差点を目指して急坂を降りていく。途中、アジサイが両側に2色咲きそろっていて気持ちのいい道や、帝京大学の校舎を右手に追いながら、阿津交差点にたどりついた。



阿津バス停の前を通り過ぎると、右手に聞き覚えのある、トモエ電線製作所という会社があった。YEL の時代によく使っていた電線ケーブルのメーカーのはずだ。

16 番札所“宝福寺”は、この通りから少し右手に入った所に見つかった。小さな山門には六地藏尊も祀られており、こじんまりした感じのよいお寺さんである。お寺に関する相談は、何でもどうぞのような掲示もしてあった。何だか親しく感じながら読経を済ませ次を目指す。





たのむみはすえわかなやぎの
ほうふくじたまのうてなも
ゆたかなるべし

頼む身は末若柳の
宝福寺玉の臺も
豊かなるべし

第16番 宝福寺(若柳) 観世音菩薩
長尾山宝福寺(ほうふくじ)。**臨済宗建長寺派**。
御本尊は薬師如来。聖林慈徳禅師を開山として
宝徳3年(1451)に創建。山号の長尾山につ
いては、前方にある千木良長尾(ながお)を
見渡す景勝地だからと言う説、寺が相模川対岸
の千木良側「長尾」に在ったからと言う説があ
る。「明治孝節録」に載せられている孝女平井
初子の墓がある。昭和4年奥畑にあった宝壽庵
を吸収合併。近年客殿庫裏が新築完成してい
る。

相模川の“桂橋”に向かう途中に、立派な葡萄園が広がっていた。追いついた小学生に“ブドウ狩り”をや
っているのかと聞いたが「知らない！」そっけない。道路沿いにそれらしき案内も見当たらないので、や
っていないのかもしれない。トンネルを避けて、旧道からたどりついた“桂橋”の優美さと周辺の景色の見事さ
に、しばし通り過ぎるのを惜しんでシャッターを押す。此のあたりは沼本ダムの上流なのだろう、水が濃いルビ
ー色をしており、廻りの緑を映しこんで何時までも見飽きない、吸い込まれるような雄大なルビーの帯が橋の両
側に伸びている。



上流側(遠くに中央高速も見える)



下流側

桂橋を渡りきって少し登った所に“大通寺”はひっそりたたずんでいた。お寺の前には、こんな所に床屋さ
んか?と思った床屋は、今日は休日だったが、2階から子犬がうるさ
く吠えている。ひっそりしたお寺で読経している自分がきっと怪しく映って
いたのだろう。それにしてもうるさい子犬だった。



大通の仏の前で
誓らば釈迦の御法を
如何で聞くべし
だいふうのほとけのまえで
ちぎらばしやかのみのりを
いかできくべし

第17番 大通寺(赤馬) 観世音菩薩
南海山大通寺(だいつうじ)。**臨済宗南禅寺派**。応永年間(1394~
1427)の創建で、開山は勅諡法光
円融禅師。御本尊聖観世音菩薩は救
いを求める人々の称えるその音声
を観じ、千変万化して 解脱を得し
める前の一面二臂のお姿である。郡
内では珍しい南禅寺派の禅寺で明
治初年、二十三代住職の後は無住
と成っている。現在は、八王子高尾
の長泉寺が兼務している。

そろそろ正式に昼食が欲しくなってきた。千木良あたりに何かないかな？と楽しみにしながら次の札所を目指す。途中にうどん屋を見つけ、玄関を開けたが、何だか敷居が高すぎて退散してしまう。しばらくすると、コンビニ風のお店が現れた。意外と食料品が何でも揃っているのにビックリする。イオン水のようなものも無料で置いてある。ここでパンとチョコ、飲み物を買って、前のベンチで昼食とした。やさしそうな娘さんが、パンが2割引だったのを忘れていたようで精算しなおしてくれた（ということは、古いパンってことかな？）チョコは失敗で、甘すぎて途中のゴミ箱行きとなってしまう。

此のあたりは、福祉施設ヤマユリ園の散歩コースのようで、それらしき人たちが、付き添いの人たちと、ゆっくり歩いて行く姿を横目で追いながら、18番札所“善勝寺”に到着した。ここも立派なお寺である。鐘楼を一突きし、読経を済ませると奥様らしき人が覗いてきた。それらしく挨拶し、国道20号線を相模湖に向かう。



日の光普く照らす
此の寺は庭に影さす
富士の白雪
ひのひかりあまねくてらす
このてらはにわにかげさす
ふじのしらゆき

第18番 善勝寺（千木良） 十一面観世音菩薩
見富山善勝寺（ぜんしょうじ）。高野山真言宗。御本尊様は毘沙門天。文亀年間（1570～1572）、宥海によって再興し、関東法談所三十六院の一つと称された。境内には、高野槇（町指定の天然記念物）があるほか、飛地境内には弁天堂（相模川傍にある俗称弁天島）がある。この本尊宇賀神弁財天は、現在本堂に奉納安置されている。小田原後北条時代の古文書数点あり。

休館の小原本陣を通り過ぎ、2町半ばかりの旧宿場の面影をたどりながら街道を抜けると、“長福寺”へは右折の看板が見えた。旧甲州街道の方から行くのが正解らしい。旧甲州街道は、中央高速のお陰で寸断されているようだが、下り線専用の“東相模湖出口”の真上を抜けると、今度は中央高速を高架橋で渡り、山の右手に本日最後の札所が見えてきた。山門からは中央高速越しに城山方面から相模湖のやまなみが一望でき、かなりの眺望のお寺である。読経を済ませパノラマ撮影し、帰りの予定地“相模湖駅”に向かう。

峰続く尾上の松の
長福寺朝日も早く
夕日輝く
みねつづくおのえのまつの
ちようふくじあさひもはやく
ゆうひかがやく



第19番 長福寺（中野） 観世音菩薩

金剛山長福寺（ちょうふくじ）。**臨済宗建長寺派**。元の札所は小原の正雲寺であったが、明治以前に長福寺と合併。室町時代中期、祖庭意和尚に依って建立される。御本尊地藏菩薩は室町時代の後期の作と鑑定されたが、平成二年の大火で焼失、平成五年本堂、客殿、庫裏を再建し、御本尊延命願王菩薩及び霊場御本尊聖観世音菩薩を勧請する。

途中で道を間違えたようで、もと来た道を下ってしまった。お陰で“与瀬中央公園”なる見かけ倒しの公園にも出会うことができた。本当はもう一本下流の高架橋に向かった方が相模湖駅は近そうだ。

駅の上の方から相模湖が眺められる場所があったが、これがまた絶景ポイントで素晴らしかった。相模湖の町って案外きれいな町だと思い知らされる。（下の写真、相模湖駅は右手の方）



しかし、相模湖駅の裏側から表側に移動するのは容易ではない。かなり迂回しないと20号線に出られない。結局、線路がトンネルに入るところまで下らないと線路を越えられなかった。駅裏なのに生活には相当不便な所だと思うし、意外と上空を走っている中央高速の音が耳について、住環境としては???なのかも知れない。それでも相模湖駅を裏から眺めたのは初めてだったが、案外ときれいな駅で、さすが観光地だな・・・の印象、それは駅前に着いてからも感じた印象でもある。

帝京大学薬学部の若い学生たちが、連絡駅として大勢乗り降りすることもあり、案外広い駅前広場、何時も車で利用する津久井街道から20号線に合流する度に思う、“ひなびた駅前”の印象とは大分違うことに驚いた。駅前には、案外しゃれたお店も頑張っているようだし・・・。



バスは自分と学生たちを乗せて出発、間もなくして三ヶ木に着いた。あわてて乗り換えた新小倉橋経由の橋本北口行きのバスには失敗した。なんと、三ヶ木バスターミナルを相模湖方向に左折するではないか。今更仕方ないし、そのまま揺られていると、1日目に歩いた串川の方から金原の富士塚を通り、根小屋の交番前で右折していく。どこに行くかと思いきや、3番札所“中野堂”前を通り、荒句を通り、新小倉橋を渡ってきた。カインズの西の“東向原”でようやく降りたが、時間がかかった上に390円の散財になってしまった。悔しいことに、バスは向原を越えて“農協”の交差点を右折しやがった。残念！もうひとつ先のバス停まで行けばよかったのか・・・。

でも新しい発見の、酔う暇のないバスの一筆書き体験ではあった。（津久井観音霊場巡りーその3 終わり）